



◎特集 / 学長・学部長座談会

輝

地域から世界へ、 三重大学が見つめる未来。

国立大学の法人化後、三重大学では各学部で教育や体制の改革を進めています。「地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す」ため、今回は学長のもとに5学部の学部長が集まり、改革の進捗状況や将来展望について議論を交わしました。そこには地域圏大学として三重大学が放つ、未知数の輝きが見えてきます。

(写真左から) 鎮西康雄、丹保健一、井口 靖、豊田長康、加藤征三、天野秀臣

学長
豊田長康

人文学部長
井口 靖

教育学部長
丹保健一

医学部長
鎮西康雄

工学部長
加藤征三

生物資源学部長
天野秀臣

常に地域を見つめてきた 三重大学の教育・研究

司会 本日はお集まりいただきありがとうございます。法人化後、三重大学ではさまざまな取り組みを進めていますが、まず各学部・研究科の理念や特長についてお話しいただきたいと思います。

井口 人文学部は学際性、総合性が理念として謳われ、従来の学問枠にとらわれず多様な分野を学べる体制が整えられています。大学院でも多様な科目を履修でき、キャリアアップや教養を深めるために社会人の方も数多く学んでいらっしゃいます。

丹保 教育学部の理念は、実践力のある教員の養成、教育に関連する人材の育成であり、大学院ではより質の高い高度な人材養成が目的です。地域と共にという考え方から、三重県や津市、四日市市の教育委員会、地域の学校とも連携の動きが活発化しています。一方で、こうした県や市と提携する河南省の河南師範大学



や天津市の天津師範大学、鎮江市の江蘇大学との連携を進め、アメリカ・ノースカロライナ大学ともe-learning(※1)を通じて交流するなど、海外の大学と共に国際的な視野を持つ人材を育てようとしています。

鎮西 医学部では確固たる倫理観、使命感をもった医師、看護師の養成を第一に掲げ、豊かな創造力と研究能力を培い、人類の健康と福祉の向上に努め、地域および国際社会に貢献すると謳ってきました。一方で教育、研究、診療のバランスの良い

発展が重要であり、人材養成と共に、世界レベルの研究を一つでも多く出したいと考えています。

加藤 工学部では、工学および産業界の見地から、私どもの活動が具体的にどう社会に活かされたかという結果を認めていただき、工学部の存在をアピールしようと努力しています。そのため教育と研究と社会貢献を3本柱としているわけですが、結果については客観的あるいは数値的な評価を取り入れようとしています。

天野 生物資源学部の理念は自然と人類の共存を図り、生物資源の保全、生産、利用の調和を図りながら循環型社会の構築を目指すということであり、それを担う人材を養成するということです。旧制大学以外の農学系の大学院は連合大学院を組むということになっていますが、唯一、三重大学は単独で博士課程の設置が認められています。

豊田 法人化の際に、三重大学の使命を皆さんと一緒に考え、「三重から世界へ：地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。～人と自然の調和・共生の中で～」としました。その中で、まず第一に三重大学が大切にしなければならないのは地域に根ざすということです。三重大学は半世紀にわたってこの地域で大きな役割を果たしてきましたが、今後も地域社会の皆さんに強く支持していただけるよう連携を図っていくと同時に、世界に通用する研究や人材育成も進めていかなければなりません。

教育ニーズに即した 問題解決型授業や 評価法の導入

司会 各学部の教育内容と教養教育への考え方についてお教え下さい。

井口 人文学部の文化学科は世界を4地域に分けて学ぶ地域研究が出発点にあり、加えて地域を横断する環境文化専修が置かれています。また、社会科学科では専門的な基礎固めの上で学際性、総合性を追求するため、履修プログラム制を敷いています。人文の教員のほとんどが教養教育も担当していますので、教養教育と専門教育を一連の流れで展開できるのも特長です。



丹保 教員養成において、今一番求められているのは現場で実践的に指導できる教員です。そこで、早くから現場に入って学ぶ実地教育を本格的に始める予定です。また、PBLチュートリアル(※2)を用いた教育を行うためPBL推進委員会を作り、05年後期からは教育委員会の方々にも授業をしていただいております。さらに、中国をターゲットにした日本語教育コースは全国的にもユニークで、中国の大学との共同運営を検討している最中です。教養教育は教員には強く要求される分野ですので、今、抜本的な見直しをしています。

鎮西 医学部では、学生同士が討論して理解を深めるPBLチュートリアル、学外の病院で現場の医療に接する臨床クラークシップ(※3)を全国の医学部に先駆けて導入し、模範となってきました。また、医療の知識や技術だけではなく、研究者的な探究心を身につけるため、研究や論文の指導を行う研究室研修も重視しています。さらに、医学・看護学教育センターを立ち上げ、全体を見ながら教育のコーディネートをしていきます。

加藤 工学部では三重大学の教育目標である「感じる力、考える力、生きる力」に「動かす力」を加え、ダイナミックでパワフルな能力を育み、創成力に満ちた技術開発者を輩出したいと考えています。そのために実験や実習などでPBLも取り入れながら、専門知識と実践力の育成に努め、技術倫理のような全人教育も展開していきます。教養教育は4年にわたるカリキュラムに変え、英語やキャリア形成科目、数学など工学の基礎を徹底して指導していきます。

天野 生物資源学部ではFD活動^(※4)を取り入れ、学生の授業評価に対する改善策を教員が次年度に反映させると共に、教員チームが授業参観をするなど、学生・教員の両面からきめ細やかな教育の実施、就学の支援を行っています。また、教育に関する評価法一つとしてJABEE(日本技術者教育認定機構)^(※5)も導入しました。教養教育では、サイエンスイングリッシュや技術倫理の授業に力を入れています。



豊田 三重大学の教育目標は「感じる力・考える力・生きる力、そしてその基盤となるコミュニケーション能力の養成」ですが、その達成のために高等教育開発創造センターを作り、PBLの体系化や評価法の開発など全学共通の課題について研究しています。教養教育の重要性については皆さんと同じ思いです。実際、社会には専門分野だけでは対応できない事柄も多く、それに必要な応用力は教養教育で身につくものです。全学でのTOEICの実施や現代的ニーズ取組支援プログラムで認められた知的財産教育の展開など、教養教育の実効性を上げる努力も始めています。

産学官連携で、 専門を越えた 共同研究を展開

司会 大学院教育の改革や研究活動についてお教えてください。

井口 人文社会科学研究科では高度職業人の養成、社会人のキャリアアップを目指した教育を行うと共に、地域の方の教養向上のため科目等履修生制度を推進しています。教育・研究とも地域を抜きにしては語れず、大学院の「三重の文化と社会」という授業で県内の地域に出かけたり、斎宮歴史博物館と協定を結んで研究を進めています。また、人文学部研究センターを設け、外部と共同で19ものプロジェクトを展開しています。この画期的な共同研究により、新しい視野が開け、地域や世界への貢献ができるものと考えます。

丹保 教育学部も共同研究の機会は少なかったわけですが、最近プロジェクトを誘発し、若手が共同で研究する動きが出てきました。また、学部教育と大学院教育を6年連続した形で考え、院生が学部の授業の履修や教員資格の取得ができる措置を導入しています。

鎮西 医学部では全国的に専門医養成という志向が強くなり、医学研究者養成機関としての大学院は危機的な状況にあります。私たちは研究者養成に加え臨床研究の担い手養成という目的を設定し、実質的な教育を行う改革を始めています。また、医科学修士については医療関連の多様な職業人養成の機関になればと考えていますが、先頃、主に修士課程のインターシッブの一つ「地域圏バイオ・メディカル創業プログラム」が、文科省の「派遣型高度人材育成共同プラン」に採択されました。研究に関しては、学内COEでもある血栓止血機構の研究といった基礎研究から、癌の免疫療法などの臨床研究まで、日本トップクラスの先生方が世界に通用する研究を展開されています。

加藤 工学部では大学院教育イノベーションとして、プロジェクトリーダーの素質育成に力を入れるようになりました。また、国際会議での発表を資金面でもサポートし、これまでに多くの学生が発表しています。研究では研究・社会連携委員会を設けてプロジェ



クトチームを作り、産学官連携コーディネータを雇って活動を始めたところ、いろいろな大型プロジェクトが取れるようになってきました。同時に、企業から新講座を導入したり、リサーチフェローとして研究をお手伝いいただくなど、教育・研究両面での産学連携を推進しています。そして、個々の点となっていた学内の研究を線で結び、学外の企業、県や市と一緒に面にし、21世紀COEの採択を狙っていきます。

天野 生物資源学部では大学院が改組されましたが、その目玉はプロジェクト型のドクターコースです。一つのプロジェクトのもと農・林・水の先生が集まり、院生も入って、社会ニーズに合った研究を進める。期限を決め外部評価も入れて、重点項目を選んで研究の活性化を図りたいと思っています。強化が必要な分野については連携大学院というシステムを採用し、他の研究所の先生方と連携してやっていきます。また、資源循環の研究では、廃棄されていた木材の成分を焼却することなく、常温・常圧で新しい木材に変えることに成功するなど、素晴らしい成果が出ています。他にも国家プロジェクトだったイネゲノムの解明や英虞湾の環境創生プロジェクトにも多くの先生方を含めて関わり、南極観測隊の隊長といった優れた先生方が地球の上から下までを網羅した研究を進めています。

豊田 大学院教育の実質化は全国的な

問題です。従来の研究者養成タイプも必要ですが、社会のニーズ、ウォンツを敏感に感じ取って、多様な院教育を提供していく必要があると思っています。産学連携を強調した大学院や専門職大学院、MOT^(※6)的な大学院を作るということも検討しなければならないでしょう。また、個々には世界に通用する研究が数多くありますので、それをもっとアピールし、この分野だけは三重大学は負けないというのを作りたいですね。

新たな取り組みが さらなる輝きを発揮

司会 最後に、社会連携をはじめ将来構想についてお考えをお聞かせ下さい。



丹保 教育学部ではFD委員会を作り、学生と何回も話し合い、職員と教員と一緒に活動をするなど、ユニークなFD活動が一つの輝きになってきていると思います。将来展望としては、日本語教育コースは国際交流センターや中国語関係では人文学部とも連携できるのではないかと思います。**鎮西** 今後は学長がおっしゃられた三重大学の強みを作る努力も必要ですし、一方で研究の裾野を維持していく努力も必要でしょう。また、財政基盤の部分では、病院や症例を持っているのは大学にとって大きな財産です。今、「みえ治験医療ネットワーク」などの整備を進めていますが、それが将来的には期待できると思っています。附属病院の再開発も見えてきて、診療はもちろん教育、研究にとっても希望の持てる材料だと思っています。

天野 生物資源学部は医学部の次に大学院大学化の準備に入りました。先程もお話

したように、従来型のドクターコースの講座間、研究分野間の壁を取り払い大講座にして、一つのプロジェクトに教員が10人以上入るようにしたんです。プロジェクトの進行状況が悪ければ組み替えて、新たな形にするということにしています。

加藤 工学部は攻めの体制で臨もうと、一つは四日市展開を目標としています。産業集積している四日市に研究教育の拠点を作り、学内COEの未来エネルギー・コミュニティ成立工学を展開したい。そこには企業への学生のインターンシップもからませたいと考えています。三重県や四日市市とも連携しながら、企業と大学で来年度には拠点づくりをしたいと思います。

井口 大学は地域のリーダーとして、地域の社会・文化を支えるだけではなく、新しい文化を創り出すことを考えていかなければいけません。その一つが市民講座です。人文学部は少人数の市民を対象に05年度は22の講座を開き、延べ100名以上の受講者を得てマスコミにも取り上げられました。他にもサテライトカレッジや三重大学の文化フォーラムを通じて地域貢献、社会連携を進めています。市民の方が学問に目覚めていけば、ニーズが生じ、三重県全体の文化度も向上するのではないのでしょうか。

豊田 法人化後、教育、研究に続く、大学の第3の使命として社会貢献、地域連携があげられています。地域の潜在的なニーズを掘り起こし、こちらから提案するために、三重大学では産学官連携コーディネータに企業を回っていただいて、企業のニーズと大学のシーズをマッチさせる取り組みを始め、先生方の研究成果を集めた「三重大学全学シーズ集」^(※7)もネットで公開しました。また、法人化後は顧客第一主義ということも大切です。地域や企業の資金で大学が研究を進め、そこで生まれた知的財産を企業や社会に還元するという仕組みも動き始めています。三重大学では、四日市フロント、東京オフィスと

他地域でも産学官連携、社会連携をする拠点を作りつつあり、そういったフロントの数を増やしていきたいと思っています。今まで以上に地域圏大学として輝くために、もっと三重大学の存在感を発揮していきたいでしょう。

司会 本日はありがとうございました。

- (※1) e-learning
インターネット、パソコンを活用した教育、学習システム
- (※2) PBLチュートリアル教育
学生が少人数で自主的に取り組む問題発見解決型教育・学習
- (※3) クリニカルクラッシュ
学生が医療スタッフとして参加する診療参加型臨床実習
- (※4) FD活動
教育内容・方法を改善するための組織的な取り組み
- (※5) JABEE(日本技術者教育認定機構)
世界に通用する技術者を育てるために技術系教育カリキュラムの審査・認定を行う機構
- (※6) MOT
技術経営、技術マネジメント
- (※7) 三重大学全学シーズ集
<http://www.crc.mie-u.ac.jp/seeds/>

プロフィール

豊田長康 とよながやす
学長 医学博士 1950年生まれ
専門分野は、産科婦人科学・周産期医学・生殖内分泌代謝学

井口 靖 いのくちやすし
人文学部長 文学修士 1955年生まれ
専門分野は、ドイツ語学・言語学

丹保健一 たんぼけんいち
教育学部長 文学修士 1948年生まれ
専門分野は、国文学部

鎮西康雄 ちんざいやすお
医学部長 医学博士・農学博士 1944年生まれ
専門分野は、医動物学・寄生虫学・昆虫生理学・分子生物学

加藤征三 かとうせいぞう
工学部長 工学博士 1943年生まれ
専門分野は、環境エネルギー

天野秀臣 あまのひでおみ
生物資源学部長 農学博士 1944年生まれ
専門分野は、水産生物学

◎司会・進行
森野捷輔 もりのしょうすけ
理事・副学長(研究担当) 工学博士 1942年生まれ
専門分野は、建築構造学